Micro&Fine Technology
日本精線株式会社

日本精線株式会社 2025 年第 2 四半期（中間期）決算説明会　質疑応答（要旨）

開催日　２０２５年１１月２７日（木）
出席者　代表取締役社長　利光　一浩
　　執行役員　　木寅　潤一

Q. 日本精線の特徴や強みについて説明して欲しい。

A. ■「より細く、より精密な」製品づくりを特徴としており、ステンレス極細線も創業当初からその開発を続けています。
■金属繊維部門についても「より細く、より精密に」を追求し、他社には真似のできない技術を保有していると自負しています。
■また、大同特殊鋼株式会社と協同で素材開発などに取り組むことができるのも強みの一つです。

Q. 顧客別の売上高の概略を教えて欲しい。

A. ■ステンレス鋼線部門と金属繊維部門で顧客は大きく異なります。ステンレス鋼線部門では、1/3 が自動車関連向け、1/3 が建築関連向け、1/3 が電気部品関連や日用品その他向けで構成されています。
■金属繊維部門では、約半分が化合繊維向けなどのナスロン®フィルター、約半分が半導体製造装置向けの超精密ガスフィルターで構成されています。

Q. 極細線需要に関連する中国太陽光パネル市場の回復時期をどのように見ているか。

A. ■回復時期は不透明な状況ですが、今下期は引き続き低調な推移となる見込みです。
■中国での太陽光パネルの過剰生産は解消に向かっており、在庫調整は進む見通しですが、パネル製造時に使用されるスクリーン印刷用のメッシュも、その流通過程で在庫過多の状態となっており、極細線の需要回復時期は不透明な状況です。
■なお、極細線は受注生産のため弊社内で在庫が積み上がっているということはありません。

Q.超精密ガスフィルターについて、足元の状況と今後の見通しは？

A.　■SEMI（国際半導体製造装置材料協会）の予測などから AI やデータセンター向けで半導体需要は伸びるとみており、超精密ガスフィルターは堅調に推移すると予想していますが、本格的な立ち上がりは 2026 年以降との予測が多く、今下期での大きな上振れはないものと予想しています。

Q. 極細線の競争環境について、技術優位性の説明があったが中国メーカーによる技術的なキャッチアップの心配はないのか。

A.　■弊社で製造した極細線は、スクリーン印刷用のメッシュに編まれたのち、中国に輸出され太陽光パネル向けに使用される、という流れになっています。

■比較的太い線径の極細線を中国で製造することはありますが、太陽光パネル製造向けに需要が高まっている線径の細い極細線は、中国製はほとんど競争力がないと認識しており、技術的なキャッチアップは当面ないと考えています。

Q.会社として一段の成長を成し遂げるための経営課題は？

A.■中期経営計画「NSG26」の基本方針として、サステナビリティ成長分野に向けた高機能・独自製品の開発深化を第一に掲げています。

■他社との競争に打ち勝っていくには、 高機能・独自製品をいかに深化、拡販していくかにあると考えており、そのための設備投資や研究開発が課題だと考えています。

■人材不足への対応も経営課題の一つと考えており、その対策として設備の自動化や AI を使った業務効率化を進めています。また、従業員教育にも力を入れ、スキルの底上げを図っていきたいと考えています。

以上

本資料に記述されております業績見通し等の数値や情報につきましては、現状で判断しうる一定の前提に基づいております。

今後発生する状況の変化によっては異なる業績結果となることも予想されますので、投資等の判断材料として全面的に依拠されることは差し控えていただきますようお願いいたします。また今後予告なしに予想数字が変更されることがあります。本資料にある情報をいかなる目的で使用される場合におきましても、各自の判断と責任において使用されるものであり、本資料にある情報の使用による結果について、弊社は何らかの責任を負うものではありませんのでご了承ください。